

◀ここから剥がして2枚目も必ずお読み下さい。

使用説明書

使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

製法及び性状

本剤は、発育鶏卵の尿膜腔内で増殖させたニューカッスル病ウイルスと3株の鶏伝染性気管支炎ウイルス、発育あひる卵で増殖させた産卵低下症候群-1976ウイルス、液体培地で増殖させたヘモフィルス・バラガリナルムA型菌、C型菌及びマイコプラズマ・ガリセプチカム、これら8種類の不活化抗原を混合したものに、オリアジュバントと保存剤を加えて乳化し、小分容器に分注したものである。

本剤は粘稠性のある白色の液体で、静置すると上層は淡黄白色不透明、下層は白色不透明の2層に分かれることがあるが、振盪すれば容易に白色の均質な懸濁液となる。

成分及び分量

○1ボトル(500mL)中

発育鶏卵培養ニューカッスル病ウイルス 石井株 (不活化前ウイルス量) 10 ^{10.0}	EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス 遊賀株 (不活化前ウイルス量) 10 ^{9.3}	EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス AO-27株 (不活化前ウイルス量) 10 ^{9.3}	EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス GN-58株 (不活化前ウイルス量) 10 ^{9.3}	EID ₅₀ 以上
発育あひる卵培養産卵低下症候群-1976ウイルス 台畜株 (不活化前ウイルス量) 10 ^{10.1}	EID ₅₀ 以上
ヘモフィルス・バラガリナルムA型菌 No.221株 (不活化後総菌数) 8.0×10 ¹⁰	個以上
ヘモフィルス・バラガリナルムC型菌 KA株 (不活化後総菌数) 1.0×10 ¹¹	個以上
マイコプラズマ・ガリセプチカム TK株 (不活化前菌量) 1.0×10 ¹¹	個以上
ホルマリン	0.6 mL以下
無水マンニトールオレイン酸エステル (AMOE)	350 mL
加流動パラフィン	残量
リン酸緩衝食塩液	残量

①

効能又は効果

ニューカッスル病、鶏伝染性気管支炎、産卵低下症候群-1976、鶏伝染性コリザ (A型・C型) の予防及びマイコプラズマ・ガリセプチカム感染症による産卵率低下の軽減

用法及び用量

50日齢以上の鶏の脚部筋肉内に0.5mLを注射する。

使用上の注意

【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。

【使用者に対する注意】

- (1) 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
ニューカッスル病ウイルス	当	死		無水マンニトールオレイン酸エステル加流動パラフィン
鶏伝染性気管支炎ウイルス	否	死		
産卵低下症候群-1976ウイルス	否	死	有	
ヘモフィルス・バラガリナルムA型菌	否	死		
ヘモフィルス・バラガリナルムC型菌	否	死		
マイコプラズマ・ガリセプチカム	否	死		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。
本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。
株式会社 微生物化学研究所 営業部
〒611-0041 京都府宇治市横島町24、16番地
TEL: 0774-22-4519 FAX: 0774-22-4568
(2) 本ワクチンの注射時は、厚手の手袋等を着用すること。

②

動物用医薬品

500mL(1,000羽分)



国家検定合格

指定

“京都微研, ポールセーバーOE8

ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎3価・産卵低下症候群-1976・鶏伝染性コリザ (A・C型)・マイコプラズマ・ガリセプチカム感染症混合 (油性アジュバント加) 不活化ワクチン

注意一獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
貯法: 2~10℃暗所



製造番号

最終有効年月

製造販売元



株式会社 微生物化学研究所
京都府宇治市横島町24、16番地

【鶏に対する注意】

1 制限事項

- (1) 本剤は肉用鶏 (種鶏を除く。) には注射しないこと。
- (2) 本剤を、産卵開始前5週間以内や産卵中の鶏に注射した場合、産卵開始の遅延あるいは産卵低下を引き起こすことがあるので、これらの時期には注射しないこと。
- (3) 本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常 (重篤な疾病) を認めた場合は注射しないこと。
- (4) 鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・元氣・食欲不振、発熱、異常呼吸又は下痢などの臨床異常が認められるもの。
 - ・疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの。
 - ・重度の皮膚疾患が認められるもの。
 - ・明らかな栄養障害があるもの。
 - ・他のワクチン投与、移動等によりストレスを受けているもの。
- (5) 本剤の注射後、激しいストレスを与えないこと。

2 副反応

- (1) 本剤は、注射後に注射部位の腫脹、硬結等や一過性の跛行及び食欲減退等が認められる場合がある。これらの反応が強い場合は、一時的な体重増加の抑制が認められることがある。
- (2) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

3 相互作用

- (1) 本剤には他の薬剤 (ワクチン) を加えて使用しないこと。

4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと (ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 注射針は、長さ7~10mm、太さ18~20ゲージのものを使用すること。また、注射中は汚染を避けるために、滅菌した針と取り替えること。
- (4) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。

③

- (5) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、容器をよく振盪した後、滅菌済注射針をゴム栓から刺し込み、注射器内に吸入すること。また、使用中にも時々振り混ぜること。ゴム栓を取り外しでの使用は、雑菌混入のおそれがあるので避けること。

【取扱上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) よく振り混ぜてから使用すること。
- (5) 本剤は粘稠度が高いため、あらかじめ常温程度 (約20℃) に戻してから使用すること。
- (6) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (7) ワクチン容器は破損をするおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- (8) 使用した器具・器材は、油性分が残らないように洗浄すること。
- (9) 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (10) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

貯法及び有効期間

- 1 遮光して、2~10℃に保存すること。
- 2 有効期間は2年間 (最終有効年月は容器正面に表示)

包装

ポリエチレンテレフタレート (PET) 容器
1000mLボトル 1ボトル 500mL (1000羽分)

④